



近畿支部会報2009年4月春号

1、平成21年度日本サーバス近畿支部3月例会報告 近畿支部長

日時：2009年3月20日（金） 場所：京都 京大会館
出席者：本部役員2名 支部役員3名 会員3名（京都1 滋賀1 奈良1） 計8名

東京での国内会議の一週間前という時期に、近畿支部で決定された案件を東京で審議していただけるように例会を持ちました。これは2月20日に役員会で決定した提案の再討議の場で、次の議案が当日決定しました。これらはサーバス日本のメンバーの皆様の国際性向上と人間力の強化を目指しています。ご意見やご提案がある方は支部長までお知らせください。

2009年3月日本サーバス近畿支部例会決定事項

1、支部運営の円滑化のために

- ・役員はやる気と能力を発揮して、協力的な支部運営がするように心がける。
- ・役員は総会や例会の前には役員会を開き、会議で討議する原案を作る。
- ・支部で行う事柄は、総会や例会で支部会員にはかって実行する。例、本日の例会。
- ・人事に関する事柄も同様とする。
- ・総会や例会の欠席者は議決権がなく、出席者にその権利を委任するものとする。
- ・例会で討議・検討する事柄は、意見のある方は出来る限り例会に出席して意見を述べるように会員として協力をお願いする。会員は各例会等の案内には目を通す。

2、退会者について

- ・本人の申し出により、退会者とする。
- ・年会費をその年の12月末日までに払っていない人は退会者とする。
- ・海外出張中など、その年度中にどうしても払えない会員は、遅れる理由を会計まで申し出る。合理的な理由の申し出があった会員は上記の規定外とする。

3、休会者について

- ・休会者とは、何らかの事情により、サーバス活動を自発的に休止して、休会する旨の届け出をした者とする。
- ・例会、総会などの連絡は会員と同様に行い、都合がつけば、積極的に参加して頂く。

4、年会費について

- ・次年度年会費納入のお願いは年度末の総会案内に合わせて行い、納入期限を12月末日とする。
- ・期限を過ぎても未入の人には、会計より知らせ、速やかに払っていただく。

5、ホストコーディネーターについて 現在の担当者はボーイスカウト等個人的なことで忙しく、コーディネーターの役割が十分には果たせないで、コーディネーターの役割を他の会員に代わっていただく。

国内会議（3月28・29日 東京にて）への提案

1、役員は各自の任務を全うする。特に、会長の任務を円滑に進めるために

- ・会長は、日本の代表として国際会議に出席する。そのための旅費（エコノミー旅券と会議に必要な期間の宿泊費実費）は、全額サーバスが負担する。
それに要した費用は、帰国後領収書を提出することを必須とする。また、会議の内容と決定事項の報告も必須である。
- ・会長はサーバス活動が活発になるように、各支部の例会、総会等に年一回出席し、各支部の状況を把握する。各支部の良い取り組み等（+）の点を、他支部に伝える等各支部に対して必要な助言・提言を行う。これは日本サーバスの向上を目的としている。これにも領収書の提出と報告が必須である。

- ・上記の事柄を達成するために、サーバス本部の財政的裏付けを強化する。
- 2、会議を円滑に進めるために、
総会や例会の前には役員会を開いて、討議事項はスピード感をもって整理、精選する。
国内会議についても、各支部の意見を持ち寄り、全国レベルで同様のことを行う。このためには、国内会議の時間配分の在り方等、検討が必要である。
- 3、ITについて
ITの現状は必ずしも上手く機能していない面がある。それを改善するために、
 - ・日本サーバスの本部役員としてはIT責任者をおかず、IT担当者は支部役員とし、支部で選出する。各支部はIT担当者を1名以上置くこととする。名義は例えば、会長で可。
 - ・ITに関する技術等諸問題については、各支部のIT担当者同士が助け合い、解決する。
- 4、Sarvas Youth組織の新設
・日本サーバスは国際的なお付き合いをして、国際会議で日本の方針を発表できるようなメンバーを必要としている。人間力のある、有能な日本人の育成を目的であるならば、他の国際グループとのお付き合いの中で国内外で活躍できるメンバーの育成と教育をする。そのため、Sarvas Youth組織(青年部)を新設する。青年部は本部に青年部部長を、各支部に青年部役員を置く。当面はSarvas International Youth Coordinatorと協力した活動等を行う。
- 5、上記1及び4を達成するために、年会費やスタンプ料の値上げによって、会員一人当たり少なくとも1000円以上本部へ上納する額を増やす予算措置を提案する。

皆様から現代に合ったサーバス組織の改善を期待する声をよく耳にします。そして今回の国内会議では、新会長の選出があります。新会長が将来に対しどのようなビジョンを示されるのか楽しみです、この報告を楽しみになさってください。

次回への持ち越し議題

- 1、休会者の会費について、
休会者の年会費をどうするかについては結論が出ず、次に持ち越すことになりました。会員の皆様のお考えを知りたく思いますので、支部長まで声をおよせください。

2、トラベラー報告—最高の人たち・最高の日々—

T・H(京都)

昨年、我が家にはデンマークから、5組の方が来られました。その方たちは、母が旅行好きなのを知り、「ぜひお出で下さい」と言って下さったので、4月16～29日、旅をする事にしました。最初に訪れたのは、ドイツのリューベックです。そこでお世話になったのは、サーバスではありませんが、35年以上も前に来られたホームステイ第1号のグルーナウさん1家です。ご主人が癌で入退院を繰り返していられ、旅立ちの1月前、「家にいるからぜひ来てください」とのメールを頂きました。リューベックから70Kmの道を運転してハンブルグ空港までご主人が迎えに来て下さいました。翌日はハンザ同盟で栄えたリューベック市内観光、中世の面影をよく残していて、木々の葉が一斉に芽吹き、春の花が咲き乱れる良い季節の観光でした。続いて昼食、マジパンで有名なレストランへ行きました。ケーキが好きな母は「今日を幸せと言わないなら、幸せなんてない」と大喜びでした。グルーナウ家には2人の子供さんがいられ、2人とも家からはるか離れた大学に行っているのに、帰って来て下さって、楽しい楽しいリューベックでの日々でした。

次はコペンハーゲンへ。ここでは昨年来られたルネさん一家が待っていて下さいました。来られた時、お腹の中にいた子供も生まれ、何とも可愛い事この上なしです。彼らが住んでいるのは6階です。外観は古さをとどめながら、室内はゆったりとモダンに作られ住み心地のよさそうな家でした。エレベーターがないので、私たちはホテルに泊まる事にしました。夕食は奥さん手作りのデンマーク料理、それが終われば食べきれない位のデザート、再会の喜びを心に満たしてホテルに帰りました。

コペンハーゲンの次はアンデルセンの生まれた町・オデンセへ行きました。ここでは郊外に住んでられるビエケさんというサーバスのメンバーにお世話になりました。彼女は

70歳を過ぎているのに、私たち4人の為にベッドを用意してくれ、夕食もスープに始まり、ゆでたジャガイモとハンバーグのフリッカデーラというデンマーク料理を作ってくださいました。しゃっきっとホストを務めていられるので、敬服しました。

次なる町はロンデです。ここにも昨年来られたギールトさんご夫妻がいらっしゃいます。「自然いっぱいの所だからいらっしゃい」と言われたように、デンマーク人のルネさんさえご存じなかった位の小さな町です。バス停には約束の時間より早く着き、それを連絡しようと思っていると、そこにいた人が携帯電話を貸して下さいました。でも、お留守の様でした。「何か問題なの」と、携帯を貸してくれた人が聞かれました。事情を話すと、「そんなの何も問題ではない。こんなに良い天気、日光浴でもしていたら最高よ」と言われ、小さな事にこせこせしない良い生き方を学びました。ギールトさんが迎えに来て下さり、家へ行きました。家に入るや、部屋は海に面した所が総ガラス張りになっていて、見降ろすように海が見られて最高です。奥さんが仕事でいらっしゃらないので、ご主人が夕食を作ってくださいました。スパゲッティやサラダにワイン、奥さん手作りのチョコレートケーキと、すごく幸せな夜でした。翌日はギールトさんが車で教会や国立公園へ連れて行って下さり、豊かな自然の中でお弁当を楽しみました。夕方から、奥さんがお勤めの学校へ案内して下さいました。奥さんはユニークな人で、ここに来られる前はレバノンの難民キャンプにいらっしゃいました。奥さんがお勤めの学校はユニークな自分探しの学校です。アートをしたり、世界のあちこちへ出かけて行って、労働奉仕をしたりです。皆ユネスコ世界遺産とよく言われますが、素晴らしいのは何もそれだけではないとつくづく思った日々でした。

次に行ったのがオーフスです。昨年来られたヤコブさんとナタリーさんのカップルが自分たちは4階のアパートに住んでいるけれど、両親がそれぞれ母にも便利な家に住んでいるのでと言って下さり訪れました。オーフスはナタリーさんのご両親が住んでいられる所です。日本の明治村の様なオールドタウンがあったり、超モダンな美術館があります。展示品の中には、中に入って寝ても良いという箱があり、入って寝ると、寝ている人も、又、展示品になるのです。又、バイキンウ美術館には、泥炭地に埋没していたので、腐食せず、実に生々しい2000年前の炭化した人間の死体がありました。ナタリー家は3人の子供さんがいられましたが、今は皆巣立っていられて、その空いた部屋を自由に使わせていただきました。又、食事は、毎日誰かの誕生日かという位、ご馳走でした。お母さんが食品関係の所に勤めていられ、お料理がとても好きとの事でした。

次にヤコブさんのご両親が住んでいられるアルボーグへ行きました。駅から2分位の広々したマンションです。奥さんは老人が好きで、日本で言うヘルパーのような仕事をされています。母にもいろいろ話しかけて下り、母もニコニコ対応しています。それで母に「なんていわはったの」と聞くと、「いつまでもその固いお肉を食べていないで、新しいのをおあがり、といわはった」というのです。全くその通りだったので、びっくりでした。又、ご主人は「ここでは90歳を過ぎた人は家でテレビを見ているか、人が訪ねてくれるのを待っているだけ。昨日も今日も同じ、明日も同じ。でもお婆さんはこうして旅をして新しい日を過ごしている。とても感激した」と言って下さいました。ここでの食事も、超豪華、ご主人は元コックだったそうで、毎日星の着いたレストランにいるようでした。オーフスとアルボーグには、ヤコブさんもナタリーさんもご一緒して下さい、ご両親も交え、和やかな毎日を過ごしました。

最後はハンブルグです。帰国1日前なので、私は空港に近いホテルでよいと思っていたのですが、私が旅行の計画を立てていた時、たまたまドイツのトラベラーが泊まられて、私が探してあげると、本国と連絡を取り、電車の駅から5分、空港まで車で20分という格好の所にウルフさんというホストを見つけて下さいました。両親と2人のお子様の4人家族です。ここは食事も特別というのではなく、ありのままの生活を見せて下さり、これも又、良い経験でした。ウルフさんが空港まで送って下さいました。

皆偶然知り合った方なのに、どなたからも良くしてもらって、最高の旅を楽しむことができました。地球上のいろんな人と知り合い、感動を共有し、共に暮らしていく良さを強く感じた旅でした。

